The Journal of
Japan Association of International Cooperation for Oral Health

Volume 2 Number 2 2024

ISSN 2759-2944

日本歯科保健医療国際協力学会　学会雑誌「**The Journal of JAICOH**」第２巻 第２号

目　次

第34回日本歯科保健医療国際協力学会総会・学術集会プログラム・抄録集

理事長挨拶 44

プログラム・抄録集 46

歯学系外国人指導者資格制度 70

投稿規定 72

執筆要綱 73

記載例 75

理事長挨拶

Japan Association of International Cooperation for Oral Health
日本歯科保健医療国際協力学会 理事長
愛知学院大学大学院歯学研究科
未来口腔医療研究センター
国際協力研究部門 部門長
夏目長門［博士（医学）・博士（歯学）］
[歯学系外国人指導者資格認定者]

日本歯科保健医療国際協力学会第34回総会および学術集会に際して挨拶をさせて頂きます。

今、日本の国力はつるべ落としのように急速に低下しています。国内では、人口減少に苦しみ、海外では、「しっかりしないと日本のようになるぞ」と反面教師の対象になっています。

しかし、小さな島国に住む私たちは、海外の皆様に日本を好きになって頂き、自動車等の工業製品等を海外の皆様に買って頂かなければ、食料やエネルギーという国民になくてはならないものすら手に入らなくなってしまいます。

歯科医学分野も、かつての歯科医師イコールお金持ちとか、憧れの職業のイメージからは程遠い状況になっています。

国際協力の分野もかつての、日本の国力に任せて発展途上の国々は物や技術がないことを前提に「教える」「差し上げる」といった、本会が発足した30年前のモデルはもう通用しなくなりました。

海外では、歯科医学分野の活動をする場合には、現地政府の許可が必要になりました。相手国の期間限定の歯科医師免許や医療許可はもちろん、日本での博士号のみならず、外国人を教える能力を証明する資格が求められ、それを提出しないと政府の活動許可が下りなくなってきています。

即ち、これまでの古典的な医療援助は相手国の法律に合致しない事例すら出てきています。

本会は、1.従来行ってきたNGOを中心とした歯科保健医療国際協力分野では、このように海外から求められている国際的な規格に合致した活動を行うための学びを行う部門、2.日本において海外からの歯科医学分野の留学生の受け入れ、質の高い教育や研究を行うとともに、留学生に日本を大好きになって頂くために、留学生に寄り添い多くの留学生に来ていただくための学びの部門、3.私たちが海外、そして国内で外国の方へより質の高い教育や研究指導を行う教育者、研究者の育成と認定を行う部門、4.JICAが行う海外協力において、20～45歳のみならず46歳から69歳のシニアも含めた歯科医学分野を中心として、歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士、歯科技工士で口腔に関わる分野の参加促進に向けた企画と実行を行う部門、そして最重要テーマのひとつである、5.学会として将来を担う学生の皆様へのサポートを行う5つの事業を行っています。

1. 歯科保健医療国際協力協議会部門　　夏目長門理事長
2. 歯科医学系留学促進協議会部門　　新崎　章理事

3. 歯科医学系国際協力教育促進協議会部門　森　悦秀理事
4. 歯科医学系海外協力隊促進協議会部門　原田祥二監事
5. 歯科医学系学生サポート部門　阿部　智会長

日本ではこれまでに、歯科医師を中心とした国際貢献を外国政府より高く評価して頂き、ベトナム、ラオス、ミャンマー、バングラデシュ、エチオピア、インドネシア、モンゴル等の名誉領事館の運営を主導しています。

コロナ禍も経験し、今こそ私たちが中心となり令和の時代に合致した新たな国際交流のモデルを構築するとともに、学生の皆様に広く本会を周知して参加して頂く必要があります。

新たな組織への飛躍を行った本会において、第34回学術集会は正にこの会の成長とともに歩んでこられた阿部　智先生に大会長を引き受けて頂きました。

阿部　智会長は東京歯科大学の学生時代より本会に参加して頂き、国際協力に関わり東京医科歯科大学大学院で公衆衛生学を学ばれ、その後多くの大学で教鞭をとり、現在は千葉市議会議員として公衆衛生学的知識に基づき、市民の健康や医療を支えるとともに国際協力の経験を活かして、多くの外国人が住む千葉市の多文化共生について、行政、姿勢をリードされています。

正に本会の申し子のような先生です。

従来の学会の事業に加えて、今回は新たに市民に向けたグローバルヘルスの講演や口腔ケアの指導をされ、御高名な神谷俊一千葉市長にも直接お目にかかれるように手配もして頂きました。

本会の開催に向けて大変な準備をされた阿部　智会長に会員を代表して心より御礼を申し上げます。

学会に参加された皆様には、実りのある学びとなり、そして新たな出会いが生まれ千葉の地に来てよかったと思って頂けるように祈念しています。

日本歯科保健医療国際協力学会
(JAICOH)
第 34 回総会・学術集会

抄録集

・会　期：2024 年 7 月 5-7 日
・場　所：幕張国際研修センター
・大会長：阿部智（千葉大学薬学部 非常勤講師）
・主　催：日本歯科保健医療国際協力学会
・後　援：千葉市、千葉県歯科医師会、千葉市歯科医師会

目次

1. 概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2. 大会長挨拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

3. タイムテーブル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

4. 抄録集 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

① 基調講演 「保健医療分野のナッジ・行動経済学」・・・・・・・・・・・ 5

② シンポジウム 1 「我が国の歯学部・歯科大学における国際交流」・・・・・・ 6

③ シンポジウム 2 「円安時代における学生の海外活動」・・・・・・・・・・・ 10

④ シンポジウム 3 「千葉から世界へ。歯科界のグローバリゼーションの光と影。」 13

⑤ シンポジウム 4 「卒後それぞれの道：歯科の国際保健のキャリアパス」・・・ 15

⑥ JICA 協力隊企画 「JICA 海外協力隊における歯科保健の位置付け」・・・・・・ 18

⑦ 一般口演 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

5. 市民啓発活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

6. 開会式、閉会式、懇親会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

1. 概要

・会　期：2024 年 7 月 5-7 日

・場　所：幕張国際研修センター（〒261-0021 千葉県千葉市美浜区ひび野 1-1）

・大会長：阿部智（千葉大学薬学部 非常勤講師）

・主　催：日本歯科保健医療国際協力学会

・後　援：千葉市、千葉県歯科医師会、千葉市歯科医師会

2.　大会長挨拶

日本歯科保健医療国際協力学会(JAICOH)
第 34 回総会・学術集会
大会長　　阿部　智

この度、日本歯科保健医療国際協力学会(JAICOH)第 34 回総会・学術集会を開催させていただくことになりました。このような機会を頂き、千葉市を会場として皆様をお迎えできることを大変光栄に感じますとともに、本学会会長夏目長門先生をはじめ、ご参会くださいます皆々様へ心から御礼と歓迎のご挨拶を申しあげます。

2021 年の第 74 回 WHO 総会で採択された口腔保健に関する決議では、2030 年に向けたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UCH）と 非感染性疾患（NCDS）の課題の一環として口腔衛生への取り組みを強化する方向性が確認されました。これは諸先生方のこれまでの活動のご実績に合致したものであり、本学会での議論や交流が今後の口腔保健に大きく貢献できると信じています。

今回の総会・学術集会では、千葉市への開催誘致を促進することを目的した「千葉市グリーン MICE 開催支援補助金」のご支援をいただきました。本補助金は従来の MICE 開催に係る経費に加え、地域への波及効果を生む取組み、脱炭素施策・廃棄物対策も助成対象としています。準備にあたって、社会における学会の意義が従来の学術の分野以外にも幅広く求められていることを認識したところです。皆様のご参加で千葉市がより発展していくことを嬉しく思います。

最後に、本大会の開催に際し、多くの皆様方にご支援ご協力を賜りましたことに心から感謝申し上げ、第 34 回総会・学術集会の成功と日本歯科保健医療国際協力学会の発展を切に願いまして開催のご挨拶とさせていただきます。

3.　タイムテーブル

時間	内容	場所	備考
2024 年 7 月 5 日（金）			
10:00 - 11:00	市民啓発イベント	アストロベースキャンプ	
16:00 - 16:20	表敬訪問	千葉市役所	市長表敬
16:30 - 17:30	役員会	千葉中央コミュニティセンター	オンライン併用
17:30 - 18:00	総会	千葉中央コミュニティセンター	
2024 年 7 月 6 日（土）			
9:45 - 10:00	開会式	幕張国際研修センター	
10:00 - 11:45	シンポジウム 1		歯学部国際対応
11:45 - 13:00	休憩		
13:00 - 14:00	シンポジウム 2		学生発表
14:00 - 14:15	コーヒーブレイク		
14:15 - 15:00	教育公演		JICA 企画
15:00 - 15:15	コーヒーブレイク		
15:15 - 16:15	シンポジウム 3		千葉大会企画
16:15 - 16:30	コーヒーブレイク		
16:30 - 17:30	基調講演		
17:45 - 19:30	懇親会	幕張国際研修センター	
20:00 -	学生合宿		
2024 年 7 月 7 日（日）			
9:00 - 10:30	シンポジウム 4	幕張国際研修センター	キャリアパス
10:30 - 10:45	コーヒーブレイク		
10:45 - 11:30	一般口演		
11:30 - 12:00	閉会式		

4.　抄録集

①　基調講演

「保健医療分野のナッジ・行動経済学」

福田 吉治

帝京大学大学院公衆衛生学研究科・学科長

1. ナッジと行動経済学とは

ナッジは「人々を強制することなく、望ましい行動に誘導するようなシグナルまたは仕組み」と定義される。関連して、“知らず知らず”、“そっと後押し”、あるいは“行動インサイト”などの用語も使用される。ナッジの基本となる学問である行動経済学は、人の行動や意思決定が必ずしも合理的ではないことに着目している。2017 年に、行動経済学者であるリチャードセイラー氏らがノーベル経済学賞を受賞して以降、行動経済学とナッジは大きく注目されている。

2. ナッジと行動経済学の基本理論

行動経済学の創始者とされるダニエル・カーネマン氏は、プロスペクティブ理論、ヒューリスティックやバイアスという考え方を提唱した。その後、デフォルトオプション、損失回避、アンカリング、フレーミング、インセンティブ、コミットメント、異時点間選択など、人の行動を説明する多くの理論が提唱された。

数多くある行動経済学やナッジは、『MINDSPACE』や『EAST』などの枠組みによって整理されている。MINDSPACE は、Messengers（メッセンジャー）、Incentives（インセンティブ）、Norms（規範）、Defaults（デフォルト）、Salience（顕著性）、Priming（潜在意識）、Affect（情動）、Commitments（約束）、Ego（利己）の、EAST は、Easy（簡単）、Attractive（魅力的）、Social（社会的）、Timely（タイムリー）の頭文字をとったもので、いずれも、ナッジの基本的で重要な考え方をまとめたものである。

3. 保健医療分野での応用

行動経済学とナッジは、さまざまな分野で応用されている。その代表が、保健医療分野である。生活習慣病等の予防において求められる行動変容や健康的な動の促進にあたり、ナッジや行動経済学の応用が期待されている。具体的には、がん検診や特定健康診査等の受診勧奨、重症化予防のための保健指導の医療機関受療の勧奨、運動・身体活動や適切な食事行動の推進、禁煙などである。さらに、適正受診・服薬、後発医薬品普及などの受療行動等に対しても効果的かもしれない。また、コロナ禍においては、新しい生活習慣の定着のためにも行動経済学とナッジが応用された。

4. 国際歯科保健分野では？

国際保健の領域でもナッジと行動経済学が注目されており、国際歯科保健での応用が可能である。その際、まず、だれのどのような行動を問題とするかを明確にすることが重要である。その上で、ナッジと行動経済学の基礎理論を学び、どのように応用できるかを検討し、実践し、評価していくこととなる。その際、前述した MINDSPACE や EAST の枠組みを用いること、あるいは、関係者とブレインストーミングしてアイデアを出し合うことが実効性を高めるだろう。

略歴

熊本大学医学部卒業（1991 年）、熊本大学大学大学院修了（1998 年）、東京医科歯科大学、国立保健医療科学院、山口大学医学部を経て、2015 年より帝京大学大学院公衆衛生学研究科 教授。2018 年より研究科長。

活動歴等

専門は、公衆衛生全般、保健政策、ヘルスプロモーション。最近の著書『ナッジを応用した保健事業実践 BOOK』（社会保険出版社）、『国保のデータヘルス計画策定・推進ガイド』（社会保険出版社）

② シンポジウム 1

日　時：2024 年 7 月 6 日（土）10:00 － 11:45

主　催：日本歯科保健医療国際協力学会歯科医学系国際協力教育促進協議会部門

テーマ：「我が国の歯学部・歯科大学における国際交流」

座　長：新崎　章（琉球大学医学部顎顔面口腔機能再建学講座・前教授）

演　者：有川　量崇（日本大学松戸歯学部衛生学講座・教授）

西條　英人（東京大学大学口腔顎顔面外科学・准教授）

大橋　祐生（岩手医科大学歯学部口腔外科学分野・准教授）

黄地　健仁（東京歯科大学生理学講座・講師）

趣旨説明

新崎　章

琉球大学医学部顎顔面口腔機能再建学講座・前教授

かつては、日本への留学を希望する多くの外国人がいましたが、世界のグローバル化の中で日本の国力の低下、更には歯科医学分野では国家試験合格率の長期低迷等により、国際協力を行う上でその余力がなくなってきています。　さらに COVID-19 のパンデミックにより国際交流が遮断された状況が続いておりましたが、昨年 5 月に新型コロナウイルス感染症分類が 5 類感染症に移行され、それに伴い徐々に国際交流が再開されるようになり、留学生の受け入れも可能となってきました。しかし、日本の歯科系大学において国際協力に関する教育は十分にはなされていないのが現状であります。

本シンポジウムでは歯科医学分野における国際交流や留学生の受け入れ、更には日本人学生への国際協力に関する教育等において特記すべき活動をしている大学の代表者にお話をして頂くとともに、日本歯科保健医療国際協力学会が中心となり、全国の歯科大学で我が国の歯科医学について海外情報を発信するとともに日本人の学生への国際協力に関する教育を促進するための企画を立案することを目的として開催します。留学生の受け入れのみならず日本人の学生へ歯科分野での国際協力等についての教育についても活発な討議が期待されます。

【略歴】

1983 年　九州大学歯学部 卒業

1985 年　琉球大学医学部 助教

1996 年　琉球大学医学部 講師

2004 年　琉球大学医学部 准教授

2013 年　琉球大学医学部 教授

【活動歴】

2001 年から琉球大学医学部歯科口腔外科のラオスでの口唇口蓋裂患者に対する無償手術活動(2001～2018 年)に准教授および教授として参画。2012～2017 年の JICA 草の根パートナー型支援事業“ラオスちゃーがんじゅう一学校・地域歯科保健プロジェクト”にプロジェクトリーダーとして参画

日本大学松戸歯学部における国際保健部の歴史
History of Club for Research for Global Health in Nihon University School of Dentistry at Matsudo

有川　量崇
日本大学松戸歯学部衛生学講座・教授

日本大学松戸歯学部3年の時、カンボジアのJAICOH学生スタディーツアーに参加した。これは、その当時の衛生学講座の森本基教授、那須郁夫助教授から、こんなツアーがあるから興味があるならば説明会に行ってきなさいと、渡された1枚のスタディーツアー募集ハガキがきっかけだった。歯科医学教育のコア・カリキュラムにも歯科医師国家試験出題基準にも国際保健という項目があるが、当時の私にとっては、そのようなものは関係なく、肌で感じたかった。そこで初めて“公衆衛生学”という学問を、自分の目で確認できた。また宮田隆先生をはじめとして多くの師匠と出会えた。それが今の私がある大きなきっかけである。

その後、卒業し、大学助手になったばかりの時に、熱い学生達からアジアにボランティアにいきたいという強い要望があった。その際、JAICOHの先生方（宮田隆先生、河村康二先生、深井穫博先生）に相談し、5名の学生達はカンボジアやトンガに行き、それなりに成長して帰ってきた。2000年に阿部智先生からのアドバイスもあり、そのメンバー中心に日本大学松戸歯学部国際保健部（部長：小林清吾教授）をつくり、あれから24年が過ぎた。コロナ禍の前までは、毎年のように学生が、カンボジアやトンガでのボランティアに参加し、それなりに成長し帰国した。APDSAにも多くの学生が参加し、多国間交流をしてきた。卒業生も150名以上を超え、その多くが、地域社会で活躍をしている。部活自体もコロナ禍で少し休んでいたが、また動いてきているようである。本シンポジウムを通じて、学生時代における国際保健教育に何が必要となるのか、その展望とともに議論する場としたい。

略歴

1997年　日本大学松戸歯学部卒業
2001年　コロンビア大学公衆衛生学部客員研究員
2005年　日本大学松戸歯学部講師（専任扱）
2014年　日本大学松戸歯学部准教授
2018年　日本大学松戸歯学部衛生学教授

活動歴等

JAICOH副理事長
日本口腔衛生学会理事（学術委員会委員長）
日本歯科医療管理学会理事（広報担当）

東京大学医学部口腔顎顔面外科講座での国際交流の活動実績と今後の展開

西條　英人
東京大学医学部 口腔顎顔面外科学講座・准教授

東京大学医学部附属病院では、従来から口唇口蓋裂治療を行っていたが、2016 年 11 月より口唇口蓋裂センターが設立され、口唇口蓋裂治療における集学的治療をさらに強化させている。演者は 20 年以上にわたり口唇口蓋裂治療に従事しており、その経験を生かして 2013 年より国際交流のミッションに参加している。10 年を経過した現在、今日までの活動を振り返ると、他大学の医師との交流が盛んになり、当施設にも多くの先生が手術の見学に参加する契機になる事もあった。また、ミッションに参加していた学生ともこのミッションを通じて交流も深まり、将来、われわれの講座に研修医として入局する契機にもなっている。また、このように、国際交流事業は、海外の患者さんを医療により福音をもたらすばかりでなく、国際交流を通じて、国内交流も盛んになっている。新しい技術や今まで知りえなかった知見を身近で習得することが可能な場であり、口唇口蓋裂治療に対してより興味を得られる場であると感じている。このようなミッションでもあるため、当施設からも多くの参加希望者がいるものの、やはり費用の問題等で、必ずしも全ての先生の要望を受け入れるには至っておらず、参加される人選を強いられている事もある。今後の展望としては、口唇口蓋裂治療に従事しているコアメンバーと、将来、口唇口蓋裂治療を目標としている若手医師らをシステマティックに人選し、費用の面を含め、コンスタントに参加出来るシステム作りが必要と考えている。

略歴

1997 年　神奈川歯科大学歯学部　卒業
1997 年　東京大学医学部附属病院分院
　　歯科口腔外科　研修医
2003 年　東京大学医学部附属病院　助手
2006 年　東京大学医学部附属病院　特任講師（病院）
2010 年　東京大学大学院口腔外科学講座　講師
2016 年　東京大学医学部附属病院
　　口唇口蓋裂センター　副センター長（併任）
2017 年　東京大学大学院口腔顎顔面外科学分野　准教授
2018 年　東京大学医学部附属病院
　　口唇口蓋裂センター　センター長
2018 年　宮崎大学医学部顎顔面口腔外科学
　　臨床教授（併任）
2021 年　東京大学医学部附属病院
　　周術期管理センター　副センター長（併任）
2023 年　神奈川歯科大学　客員教授（併任）

活動歴等

2013 年　第 72 回ベトナム・ベンチェ省医療援助
2014 年　第 73 回ベトナム・ベンチェ省医療援助
2018 年　第 77 回ベトナム・ベンチェ省医療援助
2020 年　チュニジア医療派遣隊による医療援助
2020 年　第 78 回ベトナム・ベンチェ省医療援助
2023 年　第 82 回ベトナム・ベンチェ省医療援助

演題名：岩手医科大学歯学部における国際交流について

大橋　祐生
岩手医科大学歯学部 口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野・准教授

2011 年 12 月、岩手医科大学と Harvard 大学との共同で、岩手医科大学歯学部改革プロジェクトを締結した。これによって岩手医科大学歯学部における新しい教育・診療・研究システムを構築された。具体的には、従来型の科目別の講義や実習ではなく、実際の臨床の流れに沿って、診断、高頻度歯科治療、最終補綴について学んだ後に、全身管理、口腔外科学、成長発達歯科医学、障害者歯科学、先進歯科学の順に系統的なカリキュラムとなった。また、学生少人数から構成される Society system を採用し、学年に応じて若手の指導教員（Tutor）を各 Society に 2 人配置し指導にあたるようになった。臨床実習にすすむと各学生が診療科ごとにミニマムケースを修了させていくのと並行して各 Society で包括的な歯科治療が必要なケースを担当し、臨床実習の期間を通じて学生自ら診査診断、治療計画の立案、最終補綴まで指導教員とともに実際の治療をすすめていく。臨床実習の締めくくりとして、各 Society で担当したケースについてプレゼンテーションを行い、学生通しでディスカッションを行う。この教育システムは Harvard 大学歯学部とほぼ同様であり、この流れの中で各学年に応じた国際交流が行われている。岩手医科大学歯学部の学生が Harvard 大学や Harvard 大学の関連病院での外来見学、手術見学を行い、プレゼンテーションを行っている。また、Harvard 大学歯学部の学生も岩手医科大学歯学部を訪れて同様の国際交流を行っている。2013 年から歯学部学生の国際交流が開始されこれまで延べ 41 名の学生が参加した。2020 年から 2023 年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっていたが、2023 年から再開されている。

本シンポジウムでは、当大学と Harvard 大学における国際交流の取り組みを中心に紹介し、今後の発展につながる意見交換ができればと考えている。

略歴

2005 年　岩手医科大学歯学部歯学科　卒業
2011 年　岩手医科大学大学院歯学研究科　修了
2012 年　岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野　助教
2018 年　同分野　講師
岩手医科大学附属病院頭頸部腫瘍センター センター員（現在）
2022 年　同分野　特任准教授（現在）

活動歴等

2014 年　Harvard 大学教育研修会 参加
2016 年　日本口唇口蓋裂協会ベトナム口唇口蓋裂診療隊派遣事業 参加
2017 年　日本口唇口蓋裂協会ベトナム口唇口蓋裂診療隊派遣事業 参加
2018 年　日本口唇口蓋裂協会ベトナム口唇口蓋裂診療隊派遣事業 参加
2019 年　Bern 大学頭蓋顎顔面外科 訪問
2024 年　日本口唇口蓋裂協会ベトナム口唇口蓋裂診療隊派遣事業 参加

東京歯科大学での国際交流活動と今後の展望

黄地　健仁
東京歯科大学 生理学講座・講師

東京歯科大学は、国際感覚を養うこと、また人類のための普遍的な歯科医療に貢献できる人材養成を目的に、春季休暇を利用して第 1 学年から第 5 学年までの選抜者がアメリカ、ドイツ、スウェーデン、台湾の姉妹校で、大学・病院見学・学生交流等の研修を行う Elective Study Program を実施している。また 2023 年度からは、臨床実習を経験した第 5 学年が韓国の姉妹校で病院見学を行う海外研修プログラムをスタートさせ、一人でも多くの学生の海外派遣を促進している。

また、歯学・口腔科学を学習する中で、国内外において歯科医療に係わる実社会に貢献する活動を行うことを目的として設立された東京歯科大学公認団体である国際医療研究会が存在する。国際医療に関心を持ち、歯科分野から貢献できる「国際歯科医療人」を目指し、国際医療の知識を深めることのできる研究会を目指している。主な活動内容は、これまでに国際保健活動、国際交流活動、国内ボランティア活動（高齢者施設などで）を中心としてきた。また、国際交流活動として東アジア・東南アジア・オセアニア地域の歯科学生の交流を目的とした国際交流団体であるアジア太平洋歯科学生会議（APDSA）への参加、歯科学生における日中学生交流の友好や相互理解を深め、日中の歯科保健医療を通じた社会貢献や将来を通じた両国間の連携強化や交流を推進していくことを目的として「日中歯科学生交流事業」に参加してきた。国際保健活動としては海外スタディーツアーを設置し、1999 年に第 1 回をミャンマーで開催して以来、約 20 回を数えている。将来を担う若い歯科保険・医療人の人材育成への貢献を通じて国際相互理解を促進する事業であり、歯科分野における国際保健の人材ネットワークを作り上げることが大きいと考えられる。

コロナ禍では Zoom 等での交流に制限されることもあったが、現在は活発な活動に戻りつつある。今後、このような継続的な歯学部生を対象とした活動実績を積むことで、国際感覚を養い、将来的に幅広い社会視野を持つ医療人の確保が望めると考えている。

略歴

2011 年　東京歯科大学　卒業
2013 年　慶應義塾大学病院臨床研修歯科医　修了
2013 年　慶應義塾大学大学院　入学
2017 年　慶應義塾大学大学院　修了
2017 年　慶應義塾大学医学部
　　歯科・口腔外科学教室　助教
2019 年　Harvard University　博士研究員
2021 年　東京歯科大学生理学講座　助教
2024 年　東京歯科大学生理学講座　講師

活動歴等

2008 年　日中歯科学生交流事業 参加
2022 年　Elective Study Program 引率
2023 年　Elective Study Program 引率

③　シンポジウム 2（学生発表）

日　時：2024 年 7 月 6 日（土）13:00 – 14:15

主　催：日本歯科保健医療国際協力学会

テーマ：　「円安時代における学生の海外活動」

座　長：有川　量崇（日本大学松戸歯学部衛生学講座・教授）

演　者：コロナ後の日本大学松戸歯学部国際保健部の活動

高森　麗加、袴田　杜（日本大学松戸歯学部国際保健部）

アジア太平洋歯科学生会議（APDSA）の活動について

野田江梨子、小林佳弥乃、石田カノン（アジア太平洋歯科学生会議・APDSA）

日本歯科学生会議（JDSA）の活動と今後の展望

加藤優綺、権藤絢子（日本歯科学生会議・JDSA）

アジア太平洋歯科学生会議（APDSA）の活動について

野田　江梨子[1),2)]、小林　佳弥乃[1),3)]、石田　カノン[1),4)]

1）アジア太平洋歯科学生会議（APDSA）

2）日本歯科大学生命歯学部 5 年

3）日本歯科大学生命歯学部 2 年

4）鶴見大学歯学部 3 年

アジア太平洋歯科学生会議（APDSA）は 1968 年に日本の歯科学生が中心となって設立された。以降、5 回の非開催年（1976 年, 1978 年, 1979 年, 1980 年, 2020 年）を除いて 51 回開催されている。このうち、日本開催は 5 回（1968 年, 1969 年, 1992 年, 2001 年, 2010 年）で、近年では参加が中心となっている。どの国も参加 OB は各国で中心的な役割を果たしており、日本においても同様である。本発表ではコロナ後の APDSA について報告する。

概要

・設　立：1968 年

・会員数：10,000 名（18 カ国）

・主活動：年会、ウェビナー、臨床セミナー

2024 年度の大会概要

・日　時：2024 年 8 月 1 日～8 月 5 日

・場　所：バンコク

・参加者：14 名（5 校）

・内　容：論文コンテスト、学術コンペ

コロナ後の日本大学松戸歯学部国際保健部の活動

高森　麗加、袴田　杜
日本大学松戸歯学部国際保健部
日本大学松戸歯学部・3 年

本発表では「円安時代における学生の海外活動」というテーマから 2 つの分野を設定した。

一つ目は私たち学生が「留学や研究活動」において肌身で感じた″円安時代″について実体験を述べる。

二つ目は「現地でのボランティア活動」を行うときに生じる問題について考察を行い、問題に対する解決策を考えた。

私たちはコロナ禍を経て変化した社会の中で、これまでの経験を活かしつつ、あらゆる問題に直面しても解決する能力を身に付け、国際保健部が国際的で実践的な経験を積む場となるように準備を整えている。

概要

設　立：2000 年
部　長：小林清吾（初代）、鈴木久仁博（二代目）、
　　竹内麗理（三代目）
学生数：26 名
主活動：APDSA（アジア太平洋歯科学生会議）参加
　　OISDE（歯科医療国際教育支援機構）
　　カンボジア等スタディツアー参加
　　SPMT（南太平洋医療隊）
　　トンガスタディツアー参加

活動歴

2000 年　活動参加（タイ、カンボジア）
2001 年　活動参加（タイ、カンボジア）
2002 年　活動参加（タイ、カンボジア、トンガ）
2003 年　活動参加（トンガ）
2004 年　活動参加（ラオス、カンボジア、トンガ）
2005 年　活動参加（トンガ，東ティモール）
2006-2009,2016,2017 年　活動参加（トンガ）
2017 年　JAICOH 学術集会発表
2019 年　活動参加（ラオス、カンボジア、トンガ）
2020 年　JAICOH 学術集会発表
他 APDSA に毎年参加

日本歯科学生会議（JDSA）の活動と今後の展望

加藤　優綺[1),2)]、権藤　絢子[1),3)]
1）日本歯科学生会議（JDSA）
2）神奈川歯科大学４年
3）東京歯科大学３年

JDSA は世界歯科学生連盟 IADS に日本の歯科学生団体として加盟している。国際部代表と delegates はアジア地域の加盟国との会議に 2-3 ヶ月に１回参加。希望者は９月の Annual Congress、２月の Mid Year Meeting に参加。学生のうちから世界の歯科について知見を深めたり、熱意ある他国の歯科学生と触れ合うことで、国内外問わず世界的に活躍できる歯科医師を目指している。

また、国内活動として、日本国内の学生達(小学生、中学生、高校生)に口腔ケアの大切さと歯科医師という職業のすばらしさを伝える事業を行っている。歯科医師という職業を伝えることで、学生達の進路の幅を広げることができると考えている。

・設　立：2018 年
・会員数：274 名（27 校）
・主活動：2024 年度
4 月 ： 日本臨床歯周病学会 関東支部 学生プログラム共催、JDSA 活動紹介会開催、トルコの学生と会議
5 月 ： 第１回英語話そう会開催、デンツプライシロナ ショールーム見学
6 月 ： Air way summit 希望者参加・アジア地域の歯科学生団体との会議参加
7 月 ： JAICOH 学会にて活動報告、第２回英語話そう会開催
8 月 ： 日本臨床歯周病学会 関東支部 学生プログラム共催、学校訪問
11 月 ：日本臨床歯周病学会 関東支部 学生プログラム共催、小児歯科講演会、東歯祭にブースを出展
１月：学校訪問
3 月：学校訪問、希望者のみ海外の歯科学生学会 Mid Year Meeting に参加

④　シンポジウム 3（千葉大会特別企画）

日　時：2024 年 7 月 6 日（土）14:30 － 15:45

主　催：　大会長

テーマ：　「千葉から世界へ。歯科界のグローバリゼーションの光と影。」

座　長：渕　佑介（千葉うまいもん大学・副学長）

演　者：千葉の歯科民間企業による海外展開

首藤　謙介（デンタルサポート株式会社国際事業部　副部長）

千葉の事例でインバウンド医療の課題を考える

杉本　智朗　（SK ビザ行政書士法人・所長）

趣旨説明

渕　佑介

千葉うまいもん大学・副学長

千葉には高度な技術で世界で勝負する歯科分野の事業所が多く存在し、本学会でその経験を共有したい。また、グローバル化における国内の諸問題について実例を報告していただき、タブーなく議論していきたいと考えている。

略歴

柔道 5 段

1999 年　国立大学法人 電気通信大学　卒業

1999 年　東京歯科大学　入学

2015 年　千葉うまいもん大学　創設

千葉の事例でインバウンド医療の課題を考える

杉本　智朗

SK ビザ行政書士法人・所長

観光立国政策、医療ツーリズム政策により、短期滞在の外国人が増加し一定の成果は出ていると考えられる。しかしながら、観光面ではオーバーツーリズムの課題、医療ツーリズムでは外国人による不正な医療機関の受診を防ぐ課題がある。どのような、不正な受診があり得るのか、不正な受診により自由診療が侵害され、ひいては医療ツーリズム制度そのものが崩壊してしまうリスクを考える。短期滞在者（観光ビザ）の外国人の不正受診（保険証、在留カードの貸し借り、偽造在留カード、偽造運転免許証等の提示）をどのように防止するか、方法を示す。「日本の常識は世界の非常識」の認識を持つことの重要性を問いかける。

略歴

2001 年　四国学院大学卒業社会福祉学科　卒業

2005 年　京都　西村菰軒（窯元）

2013 年　杉本インターナショナル行政書士事務所

2019 年　SK ビザ行政書士法人

主な活動

・千葉青年会議所

・千葉商工会議所青年部

・千葉ネオライオンズク

海外における歯科医療について

首藤　謙介
デンタルサポート株式会社国際事業部・副部長

本講演では、弊社が進出している国々を例に海外の歯科医療についてお話しさせていただきます。弊社の医療施設は、アラブ首長国連邦ドバイのメディカル&デンタルクリニックと、ミャンマーの歯科技工所です。この２つの医療施設を例に取り上げ、進出した経緯と、異なる文化や医療環境についてお話しいたします。

経歴

2008 年　デンタルサポート株式会社　入社
2012 年　デンタルサポート株式会社　技工課
　　デンタルスタジオ所長
2014 年　デンタルサポート株式会社
　　技工担当部長（部昇格）
2015 年　DS SAKURA DENTAL SERVICES Co., Ltd.
　　（ミャンマー）代表取締役社長（兼務）
2016 年　DS デンタルスタジオ株式会社
　　代表取締役社長就任（子会社化）
2018 年　デンタルサポート株式会社
　　国際事業部　担当部長（本社転籍）
2023 年　SAKURA Medical and Dental Clinic
　　FZ-LLC（ドバイ）代表取締役社長就任
2024 年　デンタルサポート株式会社　国際事業部
　　副部長現在に至る

【主な海外活動歴】

2012 年　アラブ首長国連邦（ドバイ）
　　SAKURA Medical & Dental Clinic 設立
2014 年　ミャンマーJICA の ODA 事業実施
2015 年　ミャンマー　DS SAKURA DENTAL SERVICES
　　（歯科技工所）を設立
2023 年　アメリカ　Glidewell 社と AI CAD
　　「FinalTouch™」独占販売店契約を締結
　　（子会社 DS デンタルスタジオ）

⑤　シンポジウム 4

日　時：2024 年 7 月 7 日（土）9:00 - 10:15

主　催：日本歯科保健医療国際協力学会

テーマ：「国際保健、卒後それぞれの道：歯科の国際保健のキャリアパス」

座　長：　大会長

演　者：　医師として歯科と医科の架け橋となる

田井　誠悟（新百合ヶ丘総合病院、東京歯科大学国際医療研究会 OB）

歯科医院をグループ展開。歯科医師の夢を叶える。

熊木　淳雄（医療法人社団 ALBA・理事長、神奈川歯科大学国際保健部 OB）

フリーランス歯科医師という生き方

石井　啓裕（医療法人社団佑健会、アジア太平洋歯科学生会議（APDSA）OB、
東京歯科大学国際医療研究会 OB）

グローバル活動こそ女子の本懐。これが私の生きる道。

山田（古川）　匡恵（国立長寿医療研究センター、東京歯科大学国際医療研究会 OB）

歯学部卒業後に医学部に入り直した変わり者の一例

田井　誠悟
新百合ヶ丘総合病院
東京歯科大学国際医療研究会 OB

【背景】歯学部卒業後、医学部に入り直す者は極めて稀である。近年増加傾向であるが、その動機の多くは不明とされている。また、医学部卒業後の進路についても多岐にわたる。

【臨床経過】30 代男性。歯学部卒業後に歯科医師として勤務した後に医学部に編入した。医学部卒業後、キャリアに悩みながらも現在救急医として神奈川県内の病院で勤務している。

【結論】進路を振りかえり自分なりの考察を加え発表する。

略歴：

2008 年　東京歯科大学歯学部入学

2014 年　東京歯科大学歯学部卒業

2014 年　東京歯科大学入職

2016 年　東京歯科大学退職

2016 年　岩手医科大学医学部医学科 3 年次編入学

2020 年　岩手医科大学医学部医学科卒業

2020 年　新百合ヶ丘総合病院初期臨床研修開始

2022 年　新百合ヶ丘総合病院初期臨床研修終了

2022 年　新百合ヶ丘総合病院救急科勤務

歯科医院をグループ展開。歯科医師の夢を叶える。

熊木　淳雄
医療法人社団 ALBA・理事長
神奈川歯科大学国際保健部 OB

略歴
2007 年　神奈川歯科大学卒業
2011 年　ALBA 歯科開設
2020 年　米国グアム大学 生医科学部 特任教授
2020 年　米国インディアナ大学歯学部 客員教授
2020 年　神奈川歯科大学特任教授

グループ医院は 20 医院
従業員 200 名

フリーランス歯科医師という生き方

石井　啓裕
医療法人社団佑健会
アジア太平洋歯科学生会議（APDSA）OB

略歴
2005 年　東京歯科大学 卒業
2006 年　東京歯科大学千葉病院　研修医修了
2010 年　東京歯科大学 修了

活動歴等
・2000 年-　大学 2 年生より APDSA に参加
・2001 年、2010 年東京大会はホストとして
・ゲストとして参加
00 年マレーシア、02 年オーストラリア、04 年シンガポール、06 年韓国、07 年台湾、08 年インドネシア、09 年マレーシア、11 年タイ、12 年オーストラリア、13 年インドネシア、14 年カンボジア、15 年台湾、16 年シンガポール、17 年香港、18 年マレーシア、19 年タイ

グローバル活動こそ女子の本懐。これが私の生きる道。

山田（古川）　匡恵
国立長寿医療研究センター
東京歯科大学国際医療研究会 OB

私は学生時代よりインドネシアの歯科保健に興味があり、インドネシアバリ島内の水道水および井戸水中のフッ素濃度の検討を行い、東京歯科大学の眞木教授に師事し卒業論文としてまとめました。博士課程修了後は様々な人との出会いを通してインドネシア、マレーシア、バングラデシュ、ネパール、ドイツなどの学会や現地の歯科大学、歯科医院を訪問してきました。歯科という狭い世界で、自分の色を濃く自由に出せることができるのはグローバル活動であり、言語の壁を乗り越えてなお、人生を謳歌できるのは、グローバル活動ではないかと考えています。結婚・出産などのライフイベントも経験し、なお、私の人生を照らしてくれるのは、グローバル活動そのものであると感じています。多様化となった今なお、多くの女性のロールモデルとして、私のキャリアをお話しできれば幸いです。

略歴

2001 年　東京歯科大学卒業

2005 年　広島大学大学院歯科補綴学　修了

2005 年-2006 年
マハサラスワティ大学（インドネシア）
Visiting assistant professor

2006 年-2011 年　昭和大学美容歯科学部門　助教

2006 年-2007 年
ケルン大学歯科材料学
Postdoctoral Fellow

2018 年-2024 年
国立長寿医療研究センター　研究員

2021 年-2023 年
日本学術振興会　特別研究員 RPD

2024 年-現在
国立長寿医療研究センター　研究員

2024 年-現在　大垣女子短期大学　非常勤講師

2024 年- NIH 国立小児保健・人間発達研究所
頭蓋顔面遺伝疾患部門 Staff Scientist

受賞歴

2023 年　優秀演題賞　第 23 回抗加齢医学会

2020 年　優秀演題賞　日本抗加齢医学会

2012 年　最優秀ポスター賞
第 12 回アジア歯科審美学会

2010 年　Special award as speaker
第 2 回南アジア歯科審美学会

2010 年　最優秀ポスター賞
第 11 回アジア歯科審美学会

⑥　JICA・協力隊企画

日　時：2024 年 7 月 6 日（土）14:15 - 15:00

主　催：日本歯科保健医療国際協力学会歯科医学系海外協力隊促進協議会部門

テーマ：「JICA 海外協力隊における歯科保健の位置付け」

座　長：原田　祥二（原田歯科・院長）

演　者：大石　精一（一般社団法人協力隊を育てる会・事務局長）

藤沢　礼香（一般社団法人協力隊を育てる会）

「JICA 海外協力隊」の活動と「育てる会」の役割について

大石　精一[1)]、藤沢　礼香[2)]
一般社団法人協力隊を育てる会・事務局長[1)]、事務部[2)]

【JICA 海外協力隊】

青年海外協力隊（現 JICA 海外協力隊）は 1965 年に発足、間もなく設立 60 周年年を迎える。原則として 2 年間、現地の人と共に暮らしながら課題解決に取り組む「国民参加型の ODA」事業は他に例がなく、形を変えながらも現在も継続しており、累計で 56,612 名の隊員が参加、現在も 74 カ国に 1,462 人の隊員が活動している（5 月 31 日現在）。JICA 海外協力隊：①青年海外協力隊（20～45 歳）、②海外協力隊（46～69 歳）③日系社会青年海外協力隊（20～45 歳、日系移住地で活動）、④日系社会海外協力隊（46～69 歳、同）の総称。

【育てる会の発足】

協力隊から遅れること 11 年後、1976 年に「育てる会」が発足、「安心して協力隊に参加できる」社会環境の整備（ボランティア休暇制度の普及、経験者の積極的な採用）を進める。初代会長：茅誠司氏（東大総長）。第 2 代：中根千枝（文化人類学者）、第 3 代：三浦朱門（作家）、第 4 代：足立房夫（日産労連）、第 5 代：山本保博（医師）、第 6 代：明石要一（教育者）。民間の立場から協力隊経験の価値を認め、「多様な価値観を認める平和で豊かな社会を創る」活動を展開している。約 50 年の中で、北海道～沖縄県まで全都道府県に育てる会を設立、地域実情に合わせた支援を行う。

【歯に係る隊員】

歯科衛生士、歯科技工士、歯科医師等、これまでに 100 名以上の隊員が活動している。こうした専門職とは別に「歯磨きの普及」等に携わる隊員（コミュニティ開発普及員、青少年活動等）も少なくない。治療へのアクセス、金銭的な問題か治療を受けられない方も少なくないため、現場の最前線で活動する隊員は、予防・啓発を重視し、人材育成の観点から貢献している。

習慣を変える⇒子どもの教育

【新しい協力隊と応援体制の整備】

これまで協力隊（ODA 事業）＝開発途上国の支援という一方的な関係に思われてきたが、昨年 8 年ぶりに ODA 大綱が改定により、「協力隊経験者の知見を我が国の課題解決につなげる」という目的が加わった。日本にはなかった（忘れられた）視点や価値観を得て帰国した隊員たちが社会を変えつつあり（外国人材の橋渡し、地域再生、積極的な平和構築）、一般市民も協力隊事業に賛同、参加できる仕組みも整備しつつある（JICA 海外協力隊応援基金）。

⑦　一般口演

次世代の自動麻酔装置

星島　宏
東北大学大学院歯学研究科 歯科口腔麻酔学分野

目的：近年、人工知能は様々な分野で応用されており、医療の分野も例外ではない。我々の研究室でも、人工知能を用い新しい医療の可能性を追求している。本研究では、開発途上である、人工知能を備えた次世代の自動麻酔装置の研究報告及び、国際協力への発展方法について考察する。

方法：本研究は東北大学歯学部倫理委員会の承認を得て行っている。対象は、静脈内鎮静下で処置を行った、歯科・口腔外科の成人患者である。データは、血圧、脈拍、呼吸数、 BIS 値を収取し、人工知能の深層学習を用いて麻酔薬（プロポフォール）の投薬推定量を算出した。また、麻酔薬を自動投薬するためのソフトウエアを別途開発した。

結果：人工知能により 30 名の患者のデータを事前学習し、プロポフォールの投薬推定量を算出することに成功した。また、自動投薬のためのソフトウェアの開発にも成功した。

結論：今後、自動麻酔装置の臨床応用に向け不具合などの修正を行っていく。最終的には、ウェブ上での接続を行い、日本国内のみならず世界のさまざまな地域で、次世代の麻酔装置が遠隔で使用可能になることを目的としている。

ベトナム社会主義共和国ベンチェ省での口唇口蓋裂に対する医療支援
―言語聴覚士の活動報告－

牧 直美[1)]、柳澤繁孝[2)]
1） 社会医療法人敬和会大分岡病院 リハビリテーション部
2） 社会医療法人敬和会大分岡病院 口腔顎顔面センター

【緒言】

特定非営利活動法人日本口唇口蓋裂協会は、1992 年よりベトナム社会主義共和国において口唇口蓋裂に対する無償手術を実施している。今回、ベンチェ省グエンディンチュー病院で 2024 年 3 月 23 日～31 日に行われた医療支援に言語聴覚士として参加した。同院には、言語聴覚士は在籍せず、言語治療室は設備されていない。現地での活動内容と今後の課題について報告する。

【活動内容】

１．鼻咽腔閉鎖機能の評価

対象：これまでの同協会の医療支援で口蓋形成術を受けた患者 26 名（4～25 歳、中央値 9 歳、男女比 19：7、片側性唇顎口蓋裂 15 名、両側性唇顎口蓋裂 5 名、口蓋裂単独 6 名）。方法：日本コミュニケーション障害学会口蓋裂言語検査に準じ、通訳を介して音声言語の評価、ブローイング検査、口腔内視診を行い、鼻咽腔閉鎖機能（以下 VPF）の程度を判定した。さらに、VPF に関わる、吹く・吸う動作や発話での困りごとがないかを聴取した。結果：VPF の判定は、良好 8 名、ごく軽度不全 4 名、軽度不全 6 名、不全 2 名、判定保留が 6 名であった。声門破裂音が２名から聴取され、４名の家族から発音が不明瞭でことばが伝わりにくいとの訴えがあり、機能改善のために家庭で行うトレーニング方法を指導した。

２．口蓋形成術後のホームトレーニングの指導

対象：今回、口蓋再形成術を受けた２名と口蓋形成術初回手術を受けた４名の計 6 名。方法：手術当日に患者家族に対して、家庭でのトレーニング方法を指導した。在日ベトナム人留学生の協力を得て自作したベトナム語のリーフレットを提示しながら実施した。内容：VPF について説明し、機能獲得のための家族によるトレーニング方法を指導した。さらに、正しい構音動作や嚥下動作獲得を目的とした舌の運動機能を高めるトレーニング方法も指導した。

【考察】

VPF が軽度不全または不全で、機能改善のための訓練や外科的・補綴的治療が必要と判断されたのは、26 名中 8 名(３０.7%)であった。これらの患者家族には、機能不全に対する認識があり困難も感じていたが、相談できる専門家がいない状況にあった。言語聴覚士による説明や家庭で行うトレーニングの指導に対して、家族の受け入れは良好であったが、今回は系統的な訓練のごく初期のものを行ったにすぎない。VPF に関わる生活動作や構音の改善の為には、段階的で長期的なアプローチが必要と考える。

NGO が中心となり設立したベトナム研究所について第 1 報
－設立の経緯と初年度活動報告につきまして－

刑部理恵[1)3)]、新美照幸[1) 2) 3)]、井村英人[1) 2) 3)]、清水政明[4)]、速水佳世[1)3)]、紅　順子[1)3)]、原田富美子[3)]、枝　努[3)]、嶋吉敏文[3)]、高田典和[5)]、吉田朗子[5)]、Ta Thanh Van[6]、Nguyen Huu Tu[6)]、Tong Minh Son[6)]、Nguyen Minh Duc[6)]、Nguyen Thu Tra[6)]、Tran Phuorg Thao[1) 6)]、Le Kha Anh[1) 6)]、Nguyen Minh Nghia[3)]、Nguyen Hoai Nam[3)]、太田剛仁[7)]、杉原功剛[7)]、澤芳彦[7)]、大原康之[3) 7)]、夏目長門[1) 2) 3) 5)]

1)愛知学院大学歯学部口腔先天異常学研究室
2)愛知学院大学大学院歯学研究科未来口腔医療研究センター
大原康之記念寄附研究部門　ベトナム研究所
3)特定非営利活動法人日本口唇口蓋裂協会
4)大阪大学外国語学部ベトナム語専攻
5)特定非営利活動法人日本医学歯学情報機構
6)ハノイ医科大学
7)株式会社槌屋・槌屋ティスコ株式会社

日本口唇口蓋裂協会は、1992 年よりベトナムへの医療協力を開始して、日本医学歯学情報機構とも連携し多くのプロジェクトを実施している。また 2008 年には、これまでの活動を通じて中部地方で初めてのベトナム名誉領事館の誘致に成功するとともに、2016 年には友好親善協会も設立して事務局を担当している。

この度、更なる両国の交流を推進するために、日本口唇口蓋裂協会相談役で愛知名古屋ベトナム友好親善協会理事を務める株式会社槌屋大原康之取締役会長のご寄付により、「大原康之記念寄附研究部門　ベトナム研究所」を愛知学院大学大学院歯学研究科未来口腔医療研究センターにベトナムについて研究をするための寄付講座を設立したので設立までの経緯と初年度の活動内容について報告する。

が国の国力が低下する中で、産学官 NGO が連携した重層的な交流のモデルとして多くの NGO や大学や企業の参考になれば幸いである。

5.　市民啓発イベント

日　時：2024 年 7 月 5 日（金）10:00 – 11:00

場　所：アストロベースキャンプ

内　容：歯磨き指導とグローバルヘルスの講習

講　師：眞木　吉信（東京歯科大学・名誉教授）

阿部　智（大会長）

6.　開会式、閉会式、懇親会

・開会式

1.　開　会
2.　主催者挨拶　　夏目　長門（日本歯科保健医療国際協力学会・理事長）
3.　大会長挨拶　　阿部　智（大会長）
4.　閉　会

・懇親会

1.　開　会
2.　歓迎の辞　　阿部　智（大会長）
3.　祝　辞　　齊藤　浩司（千葉市歯科医師会・会長）
4.　乾　杯　　石川　弘（千葉市議会・議長）
5.　歓　談
6.　閉　会

・閉会式

1.　開　会
2.　大会長挨拶　　阿部　智（大会長）
3.　主催者挨拶　　夏目　長門（日本歯科保健医療国際協力学会・理事長）
4.　シーズプロジェクト受賞発表
5.　学生学会貢献感謝賞発表
6.　次期大会長挨拶　　西條　英人（日本歯科保健医療国際協力学会・副理事長）
7.　閉　会

＝＝

日本歯科保健医療国際協力学会（JAICOH）
第 34 回総会・学術集会　抄録集

2024 年 7 月　発行
編　　　集　　　日本歯科保健医療国際協力学会第 34 回総会・学術集会準備委員会
印刷・製本

＝＝

歯学系外国人指導者資格制度

日本において歯科医学を学び研究する留学生を指導する十分な指導資格を有する歯科医学研究者並びに歯科医師を認定して学会として海外へ広く周知する事により、我が国における歯科医学分野への留学を促進する。

但し、本制度は厚生労働省の定める臨床修練歯科医師の臨床指導者ではなく、博士号取得等学術分野の研究等を指導する上での適格者を認定するものである。

指導者資格者は、以下の１～６の要件を満たすものとする。

1. 以下のいずれかに該当する経歴資格を有する者
- 英語圏にて４ヶ月以上の留学経験を有する者
- 英語圏以外で一年間以上の留学経験を有する者
- 英語検定で準一級以上又は同等の語学力を有する者
- 国際学会において 10 回以上の発表経験を有する者で最低３回以上は筆頭口頭発表であるもの
- 国際医療協力の経験等で上記と同等と審査委員会が認めた者

2. 指導する学術分野において関連学会の専門医、指導医等の資格を有する者
   上記と同等の能力経験があると審査委員会が認めた者
   但し、基礎系で関連学会に認定資格がない場合は学会経験５年以上である者

3. 博士（医学）を有する者
   博士（歯学）を有する者
   博士（薬学等）を有する者
   又はこれと同等の資格を有すると審査委員会が認めた者

4. 大学や大学院において講師以上の役職において教育経験が５年以上ある者又は現職の者（現職者は経験年数を問わない）
   上記と同等の教育経験があると審査委員会が認定した者

5. 研究業績
   初回認定時には
   最小限 IF を有する論文を１編以上有する者
   IF を有しない場合、英語論文を３編以上有する者
   査読のある日本語論文を 10 編以上有する者
   を認定する
   但し、５年後の更新時に英文論文業績（共著でも可）の加算が認められる者又は本学会での発表経験がある者のみ更新される
   最終的には、基礎系歯科医学分野では IF50 以上、IF 第１発表者 15 以上
   臨床系歯科医学分野ではＩＦ２５以上、第１発表者ＩＦ５以上が望ましい

6. 以上全てを満たし、留学生の指導を行う上で必要な倫理観と使命観等を有すると審査委員会が認めた者
また、本学会会員であることが望ましい
この場合、５年ごとの更新時には新たな業績を求めない

上記に鑑みて必要に応じ面接を行う場合がある。
申請は下記の学会ホームページより関係資料を御確認下さい。

日本歯科保健医療国際協力学会 HP
https://jaicoh.org/

Japan Association of International Cooperation for Oral Health
日本歯科保健医療国際協力学会 理事長
愛知学院大学大学院歯学研究科
未来口腔医療研究センター
国際協力研究部門 部門長
夏目長門

Japan Association of International Cooperation for Oral Health
日本歯科保健医療国際協力学会
歯科医学留学促進協議会部門 部門長
九州大学 名誉教授
森　悦秀

The Journal of JAICOH（日本歯科保健医療国際協力学会雑誌）投稿規定

1. 本誌への投稿者（代表者）は日本歯科保健医療国際協力学会の会員に限るが、共著者は全員会員であることが望ましいが必須ではない。
2. 投稿に際しては、別添の「執筆要綱」に従うこと。英文による投稿も受け付ける。
3. 投稿論文の受理ならびに採択、掲載順序は本誌編集委員会において決定する。なお、原著、症例報告については、複数の査読者の意見をもとに、編集委員会でその採否、掲載巻号を決定する。完成原稿になるまでに編集委員会から変更、書き直しを要請することもありうる。
4. 編集委員会で日本歯科保健医療国際協力学会の会員に有益と認めた場合、セカンドパブリケーションを認める。この場合、基礎とした論文を引用してセカンドパブリケーションであることを明記する。
5. 本誌に掲載された論文の著作権は本学会に帰属する。ただし、論文内容については、著者が責任を負う。
6. 原稿は、原稿ファイルを電子メールに添付し、日本歯科保健医療国際協力学会編集委員会へ送信する。
7. 論文掲載料ならびに英文査読、校正料は有料とする。ただし、学会からの依頼原稿については一部または全部の掲載料を免除する場合もある。カラー印刷、トレース代、英語の査読、校正料、別刷代などは、別途著者の負担とする。
8. 受付日（Received Date）は原稿が The Journal of JAICOH 編集委員会に到着した日とする。
9. 受理日（Accepted Date）は掲載可と判定された査読結果が日本歯科保健医療国際協力学会に到着した日とする。
10. 投稿規定に合致しない論文は受け付けない。
11. 投稿の締め切りは別途定める。
12. 投稿方法
    1) The Journal of JAICOH 編集委員会のアドレス（jaicohjournal@gmail.com）宛に E-mail 添付で次の３つのファイルを送信ください。
    2) 本文と図表をまとめて、１つの WORD ファイルでも可です。
    3) 本文と図表を別ファイルとする場合には、各ファイル名に分かりやすい名前をつけてください。例：日本太郎（本文）、日本太郎（図１）、日本太郎（表１）。
        a. 本文ファイル（表紙、抄録、本文、文献等）
           ファイル形式は WORD（97～）もしくはテキスト形式
        b. 図表ファイル（図および表）
           ファイル形式は WORD（97～）もしくはパワーポイント（97～）
           最終原稿は解像度 600 dpi 以上のもの
        c. PDF ファイル（本文・図表をすべて１つにまとめたもの）
13. 問合せ先

The Journal of JAICOH 編集委員会（編集委員長：竹内麗理）
〒271-8587 千葉県松戸市栄町西 2-870-1 日本大学松戸歯学部 生化学・分子生物学講座
E-mail: jaicohjournal@gmail.com
日本歯科保健医療国際協力学会事務局
E-mail: natsume@dpc.aichi-gakuin.ac.jp

附則

本規定は改定を受けて 2024 年 04 月 01 日から適用する。

The Journal of JAICOH（日本歯科保健医療国際協力学会雑誌）執筆要綱

1. 論文の種別について

1) 原稿は総説、原著、研究報告（統計を含む）、活動報告、症例報告、短報、資料、レターとする。
2) セカンドパブリケーションを認める。但し、この場合必ず論文中にその文献を引用し事前に編集委員会にその旨明記して掲載許可を得ることとする。
3) 論文の種別については、投稿者による種別、査読者の意見をもとに、編集委員会が最終的に決定する。

種　類	内　容
総説 Review Article	基本的には学会からの依頼により執筆する。
原著 Original Article	基礎研究、臨床研究を問わず、研究によって得られた新知見等を基に考察した論文とする。特に、海外プロジェクトの知見を原著として重要視している。
研究報告 Research Note	原著には該当しないが、国際保健、国際協力などについての価値ある報告を中心とした論文とする。
活動報告 Field Report	国際保健、国際協力に関する実践的な活動をまとめたもので、他地域で同様の事業を展開する者に参考となる報告を中心とした論文とする。
症例報告 Case Report	海外において経験した症例や国内における外国人を対象として行った治療、臨床例を報告するための論文とする。
短報 Short Communication	原著論文、研究報告より簡潔な形で報告可能な、公表する価値のある内容の論文とする。
資料 Information	国際保健、国際協力を行う上で参考になる治療や予防の手技、材料、器具等を紹介する論文とする。
レター Letter	上記のいずれにも当てはまらないが重要な内容を紹介する。関連学会、会合等の参加報告など。

2. 論文の体裁について

1) 詳細については「記載例」を参照ください。
2) 研究報告、活動報告、短報は原著と同様とする。
3) 症例報告は、「対象（材料）と方法」の代わりに、「症例」として原則、主訴、疾患名あるいは診断名、家族歴、既往歴、現病歴、現症、経過などの順に記載する。
4) 倫理的配慮が必要と思われる論文の場合は、その旨を記すこと。
5) 学会の利益相反の規定に準拠していること。
投稿に際しては、利益相反（Conflict of Interest: COI）に関する情報開示を必要とする。著者は、投稿論文において研究の遂行や、論文の作成にバイアスをもたらす可能性がある全ての利益関係（金銭的・個人的関係）を開示する。
<u>開示が必要とされる利害関係</u>
a. 営利団体（企業）からの研究助成金、寄附講座に関する寄附金の受領
b. 営利団体（企業）からの謝礼
c. 特許権使用料・ライセンス料
d. 雇用、顧問契約など

e.　その他の報酬（旅費や贈答品等）の供与

6) 原稿はＡ４用紙を使用し、余白は上下左右 25ｍｍ、１頁 30 字×25 行（12 ポイント）、横書きとする。本体は「～である」調、新かなづかい、常用漢字、算用数字を用いる。
7) 図表は原則８個までとし、必要最小限とする。図表の挿入箇所を右欄外に朱書きで明記する。
8) 文献は必要最小限度とし、本文の最後に引用順に番号をつけて記載する。本文中には、引用部の右肩に 1,2)、3-6)…の番号を付す。表記は医学雑誌の国際統一規定 Vancouver style に準ずる。著者は３名までを挙げ、それを超える場合には「他」と記す。
9) 英文はすべて半角、スペースも半角で入力してください。改行は行ごとでなく、各段落の最後にしてください。

The Journal of JAICOH（日本歯科保健医療国際協力学会雑誌）記載例

論文種別
総説、原著、研究報告（統計を含む）、活動報告、症例報告、短報、資料、レター
Article types
Review Article, Original Article, Research Note, Field Report, Case Report, Short Communication, Information, Letter

タイトル
Title
（総説、原著、研究報告（統計を含む）、活動報告、症例報告、短報、資料では和文英文ともに必須、レターでは和文英文どちらかは省略可）

著者
日本太郎 1)、日本花子 2)
Authors
Taro Nihon1), Hanako Nihon2)
（すべての論文種別で和文英文ともに必須）

所属
1) 日本大学松戸歯学部　生化学・分子生物学講座
2) 愛知学院大学歯学部　口腔先天異常学研究室
Affiliations
1) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nihon University School of Dentistry at Matsudo
2) Division of Research and Treatment for Oral Maxillofacial Congenital Anomalies, Aichi Gakuin University
（すべての論文種別で和文英文ともに必須）

連絡先
日本太郎、日本大学松戸歯学部　生化学・分子生物学講座、〒271-8587 千葉県松戸市栄町西 2-870-1、Tel: 047-360-9328、Fax: 047-360-9329、E-mail: jaicohjournal@gmail.com.
Corresponding author
Taro Nihon, Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nihon University School of Dentistry at Matsudo, 2-870-1 Sakaecho-Nishi, Matsudo, Chiba 271-8587, Japan. Tel: +81 47 360 9328, Fax: +81 47 360 9329, E-mail: jaicohjournal@gmail.com.
（すべての論文種別で和文英文ともに必須）

キーワード
３～５語
Keywords
3-5 words
（総説、原著、研究報告（統計を含む）、活動報告、症例報告、短報、資料では和文英文ともに必須、レターでは和文英文ともに省略可）

要旨
1,000 字以内
Abstract
300 words or less
（総説、原著、研究報告（統計を含む）、活動報告、症例報告、短報、資料では和文英文ともに必須、レターでは和文英文ともに省略可）

緒言
Introduction

方法
Methods

結果
Results

考察
Discussion

謝辞・研究助成金
本研究は JSPS 科研費 JP12345678 の助成を受けたものです。
Acknowledgements / Funding
This work was supported by JSPS KAKENHI Grant Number JP12345678.

著者役割
著者 A、B は研究全体の計画立案を行った。著者 A は論文執筆を行った。著者 B はデータ解析を行った。全著者が論文最終稿を確認し投稿に同意した。
Author's contributions
A and B designed the study. A drafted the original manuscript. B analyzed the data. All authors reviewed the manuscript draft and revised it critically for intellectual content. All authors have read and approved the final manuscript.

利益相反
COI に関し開示すべきことはない。
Competing interests
The authors declare that they have no competing interests.

データと試料の利用
この研究で取得し解析したデータセットは、正当な要求があれば責任著者から開示されます。
Availability of data and materials
The datasets used and/or analyzed during the current study are available from the corresponding author upon reasonable request.

倫理的承認と被験者の同意（該当する場合）
Ethics approval and consent to participate (if applicable)

出版に対する同意（該当する場合）
Patient consent for publication (if applicable)

文献
References
（総説、原著、研究報告（統計を含む）では必須、活動報告、症例報告、短報、資料、レターでは省略可）
著者は３名までを挙げ、それを超える場合には「他」と記す。
雑誌の場合
著者名. 表題. 雑誌名 西暦発行年; 巻: 頁-頁.

1) 日本太郎, 日本花子, 日本次郎, 他. 在日外国人の健康診断に関する実態調査. 国際保健 2023; 1: 1-8.
2) Taro Nihon, Hanako Nihon. Basic survey on health examination. J. Sci. Med. 2023; 25: 121-130.

単行本の場合
著者名. 表題. 編者名. 書名. 発行所所在地: 発行所, 西暦発行年; 頁-頁.

3) 鈴木太郎. 海外活動における有事での緊急対応. 佐藤太郎, 日本花子, 日本次郎編. 国際歯科医療. 東京: 日本出版, 1999; 46-53.
4) Yahya S, Roesin R. Indonesia-Implementation of the health-for-all strategy. In: WHO, Achieving health for all by the year 2000. Geneva: WHO, 1990; 133-150.

Database Online の場合
著者名. 表題 [Web page]. 発信元名 Web site. Available at ウェブアドレス. Accessed 月日, 年.

5) Taro Nihon. JICA 海外協力隊を知る [Web page]. JICA Web site. Available at https://www.jica.go.jp/forvolunteers/. Accessed December 1, 2023.

The Journal of JAICOH Vol.2 No.2
日本歯科保健医療国際協力学会雑誌 第 2 巻 第 2 号

2025 年 2 月 1 日発行
発行人　夏目長門
編集人　竹内麗理
発行所　日本歯科保健医療国際協力学会
〒464-8651 名古屋市千種区末盛通 2-11
愛知学院大学大学院歯学研究科未来口腔医療研究センター国際協力部門
E-mail: info@jaicoh.org
Website: https://jaicoh.org/
編集事務局　〒271-8587 千葉県松戸市栄町西 2-870-1
日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座
E-mail: jaicohjournal@gmail.com

【お願い】
本雑誌には個人情報が含まれていますので、取り扱いにはくれぐれもご配慮くださいますようお願い申し上げます。

https://jaicoh.org/